

KOMAZAWA 2 × 0 TSUKUBA

前半 34 分、鈴木亮が倒され得たPKを冷静に決めた中後(中央)。今期、筑波大との対戦を3度目にして初めての勝利をもたらした
(撮影・野澤俊介)



3度目の正直!! 宿敵下し2年連続聖地国立へ

チーム一丸掴んだ勝利

前半、駒大は順調な滑り出しを見せる。中嶋が倒され得たフリーキックを中後が決める。右足からくり出されたシュートはGKの正面、しかし筑波大来栖がこれをファンブルしゴールへ。ラッキーな形で先制点を決めた。ラッキーな形ではあるが開始5分で得点したことで余裕が生まれる。

駒大はカウンター攻撃で相手を翻弄。筑波大平山がスペースを作り駆け出してくるが、駒大守備陣の好守に阻まれる。筑波はさすが力のある選手を有しているだけあってゴールまでの距離をもとめせず果敢にゴールを狙ってくる。しかし、駒大ネットは揺らせない。34分にはまたも駒大にチャンスが訪れる。鈴木亮がゴール前で倒され、PKを得る。そのチャンスを中後が難なくものにし、2点目。インカレ絶好調の原もドリブルでゴールを狙う。一瞬の隙をつくが、惜しくもゴールはならず。昨年、筑波大戦を1戦もものにしていない駒大はこの壁を越えようとして共にお死だ。

後半、すでに2点ビハインドの筑波大もここからエンジンがかかる。両チームとも負傷者が続く、激しいぶつかり合い。53分には筑波大、石井。駒大は優位に立つ。しかし55分には駒大菊地が不用意なフアールで退場し10対10。筑波は石井の退場によりDF高山を投入するも直後に負傷退場と不運が続く。相手のプレッシャーも増すなか、駒大も守備陣が体をはたして、ゴールを守る。最後まで気の抜けない試合展開が続くが守備陣の堅守に駒大ゴールは守られ、2-0で試合終了。駒大は2004年を勝利で締めくくった。この試合は駒大守備陣の好守が目立った。

決勝は試合経験の無い未知なる相手、立命館大学。「相手がどこであれ自分たちのサッカーを100%して優勝したいと思います」(中嶋 駒大サッカーは勝機をもたらすのか。「試合に出る4年生も、応援してくれてる4年生もみんなが納得できる試合をして気持ち良く最後を迎えたい」(原)サッカーの聖地・国立で4年生が有終の美を飾れることを期待したい。

(越智千絵子)